

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

＜大学＞

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	統括部局：学長室	担当部局：学長室
大項目	1 キリスト教主義教育《全学的な視点》	
中項目		
小項目	1.0.1 キリスト教主義教育を行うための組織・体制は適切か。	
要素		
小項目	1.0.2 キリスト教主義教育は、本学の使命・目的に照らして適切に行っているか。	
要素	(KG1)方針、実施内容	

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. ミッションステートメントを基本とする学院のキリスト教主義教育の理念の具体的プログラム化	→キリスト教主義教育を具体化するプログラム企画を整理し、年間を通じての開催計画を明示し、チャペルアワーなども含めて、ほぼ日常的にそれが実施される体制を確保する。	B	B	B	B	B
2. ミッションステートメントを軸とするキリスト教主義理解の学院構成員への浸透	→キリスト教主義理解を提供するプログラムへの参加者数を把握し、学院構成員の半数を超える出席者が得られるよう、奨励する。	C	B	B	B	B
3. キリスト教主義教育の成果として、Mastery for Serviceを体現しうる存在としての具体的な行動への奨励	→Mastery for Serviceを体現するモデルとなる存在などを積極的に紹介するとともに、その範に従った学院構成員の活動を積極的に顕彰し、学院としてその活動の全体を把握する体制を整える。	C	B	B	B	B

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか スピリットブック『輝く自由』を企画室と大学宗教主事が中心となって作成し、各学部宗教主事が必修のキリスト教科目ならびにチャペル・アワー等を通じて全新生に配布した。また学部によってはチャペルに常時設置し、出席者の目に触れるように工夫した。またミッション展開推進委員会においてその成果等を報告するようにした。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 必修のキリスト教科目での各学部の共通基盤が出来、学部を越えた形でのキリスト教関連行事や科目の運営に際して学生の基礎的な知識を前提に実施することが出来るようになった。ただし学部によっては春学期と秋学期に一年生を分けてキリスト教科目を履修させているため、秋学期までキリスト教に触れることのない学生が存在していることは大きな課題である。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 学部間の情報共有を大学宗教主事会ならびに大学宗教主事会で行っているFDプログラムでさらに密なものとする。また、一年生のキリスト教科目履修者を春学期と秋学期に分けている学部に対して、改善の方策を進めてもらうようにする。	☆
		その他	☆

目標2	B	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 全学部対象の春・秋の大学週間プログラムを従来通り実施したが、特に春学期は「建学の理念」を毎年度主題とし、講師として学長・院長・宗教総主事・大学宗教主事等が担当し、新入生への啓発に努めた。また2013年度からは9月第四水曜日に全キャンパスで「創立記念合同チャペル」を実施し、秋学期にも「建学の精神」と関西学院の歴史を確認する時を持つようになった。また大学宗教主事会でFDを兼ねた情報交換会を春秋それぞれ一回ずつ開催し、各学部で実施されているキリスト教主義教育の現状を共有するように努めている。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 春・秋の大学合同チャペルでは毎年度新入生の半分程度が出席し、よき啓発のときとなっていると考えられる。また大学宗教主事会でのFD活動も各学部間における情報の良き共有となり、それぞれの学部講義の改善に役立っている。しかし、まだキリスト教関連プログラムに出席していない学生も多いため、さらなる出席勧奨を行う必要がある。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 大学の各学部における情報共有だけでなく、幼稚園・初等部・中学部・高等部ならびに系列学校との情報共有を行い、一貫性を有した、キリスト教主義教育としていく必要があるため、大学宗教主事会でやっているFDプログラムを宗教主事会のに拡大して行っていくこととする。</p> <p>その他</p>	☆
目標3	B	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 各学部で実施されているチャペル・プログラムに学部、教職員・学生の枠を超えた協力を、各学部宗教主事が呼びかけ、その実施に取り組み、より多彩なプログラムの提供に努めてきた。また、学生の出席勧奨を各学部宗教主事が、それぞれの学部の状況に応じた方法で行ってきた。またチャペル・プログラムが宗教主事のみでの責任で実施されるものではないことを各学部長と宗教主事が常に確認しながら、運営を行うように努めてきている。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 教員のみならず学生にもチャペル運営に積極的に参加してもらうことでその関係学生の出席が増加し、結果的にこれまでキリスト教プログラムに関心のなかった学生が参加するようになってきている。しかし、いまだ全学生が積極的にキリスト教プログラムに参加しているとは言い難い現状であり、そうした無関心な学生への呼びかけを工夫する必要がある。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か キリスト教プログラムが、学部また大学の重要なプログラムであることのさらなる周知を教授会・ゼミ等で行い、また関西学院の構成員をさらに多く巻き込んだプログラムにしていく。特に人権や平和に関するプログラムとの協力をさらに強化していく。</p> <p>その他</p>	☆
備考			☆